

議会運営委員会（1月21日～22日） 議会改革と「マラソン議会」を調査視察

議会運営委員会（鈴木昇委員長ほか8人）は、市民参加を推進する議会を目指して平成20年に議会改革特別委員会を設置した小松島市議会（徳島県）を調査視察した。議会基本条例は、議会権能の発揮、市民意思の市政反映などを検討、市民からの意見も取り入れる形で平成21年に制定した。通年議会やタブレット型端末も導入している。本村議会の機能充実を図る点を重視したい。勝浦町議会（徳島県）では、運営に関する条例や規則、専決処分などを定めた通年議会を「マラソン議会」、7月議会は若あゆ会議と称するなど、町民に親しみをもたれる住民目線の視点は重要であると感じた。



タブレット型端末を操作する小松島市議会議員

総務委員会（2月4～5日） ウェルネスバレー構想と 協働のまちづくりを調査視察



総務委員会（豊島寛一委員長ほか4人）は、健康関連施設が集積する地区（ウェルネスバレー）を拠点とし、健康長寿の幸齢社会を目指すウェルネスバレー構想（愛知県大府市）を調査視察した。県や隣町、住民、民間企業などと連携して、まちづくりをしている良い例を見ることができた。笠岡市（岡山県）では、各地域で課題を話し合う場として「まちづくり協議会」を設立し、住民同士のきずなづくりに重点をおいて協働のまちづくりを進めている。東海村の地域自治組織のあり方を見直す上で参考になった。

文教厚生委員会（2月7～8日） 家庭教育支援チームと地域ふれあいルームを調査視察

文教厚生委員会（江田五六委員長ほか6人）は、子育て経験者が漫画を用いた家庭教育情報紙を毎月発行している湯浅町（和歌山県）を調査視察した。小中学生のいる家庭を毎月訪問し、直接情報紙を配布することで、「身近な相談相手」となり、保護者の不安の軽減につながっていると感じた。有田市（和歌山県）では、子どもの放課後・休日の安全・安心な居場所として「地域ふれあいルーム」を市内全公民館で開設。地域の大人が指導者になり、年間50回の事業を展開していた。本村でも、学童を利用していない児童への放課後支援を検討する必要があるのではないかと感じた。



地域ふれあいルーム

議会報編集委員会（1月27～28日） 吉岡町と玉村町の議会だよりを調査視察



吉岡町議会視察

議会報編集委員会（岡崎悟委員長ほか5人）は、吉岡町と玉村町（2町とも群馬県）を調査視察した。よしおか議会だよりは、広報委員の手作りで、議会のありのままを分かりやすく伝える編集方針。「私もひとこと」やクイズなど住民参加型で親しみやすくし、16人のモニターから内容を充実させる貴重な意見を得ていた。たまむら議会だよりは、表紙をスポット写真と大きな目次で目立つようにし、一般質問は3人で2ページを使用するなど、独特な割り付けになっていた。2町とも広報紙作成に使命感を持ち、編集委員が手作りで、議員としての誇りと自信を深めているように感じた。